

## 第5回登別市史編さん委員会 協議概要

日 時：平成29年11月29日（水） 午後1時30分～

場 所：市役所第3会議室

出席者 委 員 出席8名、欠席2名

事務局 4名

### 1 協議概要

#### (1) 協議事項

##### ア 協議結果

新登別市史の刊行形態は、本編を冊子版とし資料編をCD-ROMとすることとし、資料編に収録する資料は現代語訳にしたものではなく、原典を翻刻したものとする。

##### イ 協議概要

(委 員)

近年の他市町村の発行状況は、どのような形態が多いか

(事務局)

いまだに冊子版による発行が多いが、一部の市町村ではたとえば年表をCD-ROMにして発行するなど併用する市町村も出てきている。

(委 員)

図書館に収蔵するときはどうにするのか

(事務局)

CD-ROMを併用している市町村の中には、CD-ROMに収録されている資料を閲覧したいとの希望も少なからずあるとのことで、紙に印刷し収蔵している例もあると聞き及んでいる。

(委 員)

本編は本として刊行し、資料編をCD-ROMとして添付してはどうかと思う。

市町村史はページ数が多いことから、全編を通読する人は少なく、必要な部分を拾い読みすることが多いと思う。市町村によっては編ごとなどでCD-ROMを作製し、希望者にはそこから印刷することもあると聞いている。また、執筆者への抜き刷りの進呈も執筆部分を抜き刷りするとともに、それに関係する部分をデジタルデータで渡すこともできるようになる。

CD-ROMなりメディアを使うメリットは容量を気にせずに写真なども入れることが出来る点だと思う。「市史ふるさと登別」は、少し文化財の写真などが少ないと感じられるので、今回はCD-ROMを付ける

ことでそれらの部分を充実させることが可能になると考える。

市町村史の発行には、どうしても財源見合いということになるが、例えばページ数や発行部数を減らしてもそれほど多くの削減にはつながらない。しかしながら、CD-ROMなどを使用して冊子部分のページ数を減らすことは、多少なりとも費用負担の低減にもつながるものと考ええる。

(委員)

資料編をCD-ROMにする場合、CD-ROMと金額もほとんど変わらないと思うのでDVDを使用してはいかがか。

(事務局)

資料編に収録するデータの容量がCD-ROM1枚の容量を超過する場合は、DVDの使用も検討することになると考える。

まずは、収録する資料の容量を確定させたいと考えており、その上でどちらにするかは事務局に一任していただきたい。

(委員長)

それぞれのご意見を伺いましたが、それでは、刊行形態については、本編を冊子版、資料編をCD-ROMとすることによろしいか。

(委員)

異議なし

(委員長)

登別市に関する資料について委員より情報提供がある。説明を願う。

(委員)

今回参考資料に掲示した資料は、北海道開拓時の様子を知るうえで非常に貴重なもので、その中でも特に河野常吉関係の資料は、調査をした当時の様子を知ることができる大変貴重なものである。

しかしながら、他の市町村史で活用されている事例は少ない。今回の新登別市史の編さんにおいて、その活用を検討してはどうか。

資料のうち「野帳」は、そのタイトルのとおり調査途中のメモであり、鉛筆書きのため解読が難しい部分もある。これについては道立図書館でデジタルアーカイブとして公開しているので、ぜひ見てみてほしい。

(事務局)

まずは道立図書館のデジタルアーカイブを拝見する。

(2) その他

登別市史編さんだより第5号を委員に配布し、市広報紙平成29年12月号の折込になる旨を報告した。